

西

初川

文

修

仲

身

編

書

卷四

K110,1
115
5

西川文仲編

卷四

初等修身書

大黒屋藏版

初等修身書卷四

西川文仲編

○皇國は天神の生み成したまへる御國なり。平田篤胤

○身體髮膚之を父母



に受く敢て毀傷せざ
るは孝の始なり。

○身を立て道を行ひ
名を後世に揚げ以て
父母を顯すは孝の終
なり。孝經

○忠は身に興り家に
著はれ國に成る其行
一なり。

○是故に其身を一に
するは忠の始なり其
家を一にするは忠の

中なり其國を一にす
るは忠の終かり忠經

○國の厚恩を荷ふ雷

小忠義を以て國に報

ゆべし岳飛

○學を好むは智に近

力め行ふは仁に近

恥を知るは勇に近

中庸

○丈夫の志たる窮

ては當に益堅かるべ

老ては當に益壯な

るべし。馬援

○人身の得失はすべて、心中の善と不善とによる。藤原肅

○人の賢愚善悪は教にあり。教れば賢とな

り。善となる。教へざれば愚とかり。悪となる。
林子平

○善を為す者は天之
不報ゆる。福を以て
不善を為す者は天

之に報ゆる小禍を以てす。孔子

○難に臨まざれば忠臣の心を見ず財に臨まざれば義士の節を見ず。省心録

○嘉肴ありと雖食はざれば其旨を知らず。至道ありと雖學ばざれば其善を知らず。禮記

○人は孝行あるを第

一とす。智慧秀て。世渡
る事の善きものも。孝
と忠とは。なきものあ
り。恥づべき事にこそ。

藤原濟継

○人の恩を受けて。負

くに。忍ざるものは。其
子たる。必ず孝なり。臣
たる。必ず忠なり。司馬
光

○人の誠を為す事は。
天地神明に通して。萬

の人。是を仰く。藤原秀
卿

○吾嘗て終日食はず。
終夜寝ずして以て思
へども益あらず。學ぶに
如かざるあり。論語

○父子親あり。君臣義
あり。夫婦別あり。長幼
序あり。朋友信あり。益
子

○仁義内にある人は
よくさか忍利欲内に

あるものは必ずさぶ
智仁親王

○外に正道をかざる
者は内に邪心をふく
む楠正成

○親は我を生めり故

に孝を以てこれに報
じ君は我を養ふ故に
忠を以てこれに報ず
これ人の道なり東
雨森

○一言の過ちも莫大

の禍となり。一事の失
も終身の憂となる。慎
むべし。大和俗訓

○孝子の深愛ある者
は必ず和氣あり。和氣
ある者は必ず愉色あ

り。愉色ある者は必ず
婉容あり。禮記

○天の道を用ひ。地の
利に因り。身を節し。以
て父母を養ふ。孝經
○少年老易く。業成り

難く一寸の光陰輕ん
ずべからず。白居易

○孝を以て君に事ふ
れば則ち忠弟を以て
長に事ふれば則ち順
忠順失はず以てその

上に事ふ

○天地の性人を貴し
とす人の行ひ孝より
大なるはなし孝は父
を嚴にするより大な
るはなし

○父子の道は天性なり。君臣の誼なり。父母これを生む。續く。これより大なるはなし。君親これに臨む。厚き。これより重きはなし。孝

經

○飽食暖衣逸居して。教おければ。則ち禽獸に近し。孟子
○倫理を正くし。恩義を篤くするは家人の

道なり。近思録

○人と約せば、信を失ふこと勿れ。當に思ふべし。一たび信を失なはば、人たることを得ずと。

○もし、其事義に協はず。或は力及ばずんば、始より約を結ぶべからず。大和俗訓

○我が神聖の道は、唯人倫を明らかにする

にあり是れ自然の大
道なり。會澤安

○當に君を愛するは
父を愛するが如く。國
を愛するは家を愛す
るが如く。民を愛する

は子を愛するが如く
なるべし。羅豫章

○勝事ばかり知りて
負る事を知らざれば
害其身に至る。徳川家

康

○孝は百行の本なり。故に人として孝ならざれば其本先づ絶ゆ。他の善行良才ありと雖觀るに足らず。貝原篤信

○親に事ふるの孝は君に事へて忠となり。兄に事ふるの敬は長に事へて順となる。故に忠臣は孝子の門に出づと云ふ。熊澤孝經

小解

卷四終

明治十六年十一月十日 版權免許

正價金六錢

近刺教科書目

小學初等作法書

新撰小學書牘

初等修身書首卷
授用

中等修身書

新撰小學地誌

學校用珠算書

猶續々出版

編者

滋賀縣士族

西

文仲

上京區第拾番組真如堂前町喜立番
地寄由
京都府平民

出版人

大黒屋太郎右衛門

上京區第廿二組下丸屋町三番戶

發賣所

京都河原町通三條下二丁目

教科書出版所

大黒屋書舖

西
初_川等_文
修身_仲書_編

卷五

K110.1
115
6